

母子相互作用の臨床的研究

- ① 小児慢性疾患における母子相互作用
- ② Deprivation Syndrom の臨床的研究

二 木 武 (都立母子保健院)
庄 司 順 一 (")
帆 足 英 一 (")
川 井 尚 (")
金 子 保 (")

研究計画

58 年 度

- ①夜尿症児についての pilot study
 - ・母子との面接
 - ・児への心理検査を実施し母子の心理的特徴を検討する。

- ②最近経験した症例を呈示し行動特徴について検討する。

59 年 度

- ①夜尿症児についての本格的な研究
 - ・前年度の例数を増し対照群の資料をうる。
 - ・夜尿症児調査表(アンケート)を約200名施行する。
 - ・夜尿症児の母子の心理的特徴を明らかにしその母子相互作用のあり方を検討する。

- ②全国の乳児院措置児について実態調査を行う。

60 年 度

- ①夜尿症児に加えてぜん息児及び心疾患児も対象とする。
 - ・慢性疾患児の特徴を明らかにし、疾患ごとの特徴を検討して夫々の母子相互作用

のあり方を検討しさらに病気が発達に及ぼす影響を考察する。

- ②症例を follow-up し deprivation syndrome の成立について検討する。

昭和58年度研究報告

- 1) 小児慢性疾患における母子相互作用 (その1)夜尿症児

5歳~12歳の夜尿症児20名(男児16名, 女児4名)を対象に, 児への面接および心理検査(P-Fスタディ), 母親との面接を行ない, 夜尿症児の心理的特徴および母子関係について検討した。その結果, 夜尿症児は, 親からは「よい子」にみられることが多いが, これは自分の欲求を抑制して表わさず, 表面的な適応にすぎないことが明らかとなった。

- 2) Deprivation Syndrome の臨床的研究

母子相互作用の不調和の極端な形である Deprivation Syndrome (Battered Child Syndrome を含む)について, 最近5年間に経験した5例を紹介し, 入院時の反応および入院後の経過から, 家庭における母子関係の不調和が, 小児の行動・発達におよぼす影響について検討した。